

みやぎの 林業だより



表紙写真

東日本大震災で被災した東松島市の旧野蒜小学校と旧宮戸小学校を統合した「東松島市立宮野森小学校」の新校舎が平成28年12月に竣工しました。

構造材や内装材には木材がふんだんに使われ、木質感あふれる校舎となっています。

<関連記事P2>

平成29年3月27日
発行

211号

目次	<p>【話 題】◎県内初となるCLT建築物が完成…………… 2</p> <p>◎東松島市立宮野森小学校の新校舎が完成しました…………… 2</p> <p>◎登米市市有林のFSC森林認証の取得について…………… 3</p> <p>◎全国初「FSC全体プロジェクト認証」による 南三陸町新庁舎の構造見学会が開催されました…………… 3</p> <p>◎株式会社イトーキ及び宮城県林業振興協会と 「宮城県産材利用推進に関する協定」を締結…………… 4</p> <p>◎WOODコレクション(モクコレ)2017に県内木材関係団体が出展…………… 4</p> <p>◎地域材の用途別安定供給体制構築に向けた取組…………… 5</p> <p>◎特定非営利活動法人リアスの森応援隊への活動支援…………… 5</p> <p>◎消費者へ原木しいたけの復活をアピール ～イオン富谷店と秋保ヴィレッジでイベント開催～…………… 6</p> <p>◎みやぎの「原木しいたけ」をPRしました…………… 6</p> <p>◎良質なたけのこ生産をめざして～竹林整備研修会を開催～…………… 7</p> <p>◎宮城県林業研究会連絡協議会主催の森林・林業研修会が開催されました…………… 7</p> <p>◎「みやぎバットの森植樹祭」の開催について…………… 8</p> <p>◎「わたしたちの森づくり事業」の取組について…………… 8</p> <p>◎自然環境功労者環境大臣表彰を受賞しました…………… 9</p> <p>◎苗木生産で日本農林漁業振興会会長賞を受賞しました…………… 9</p> <p>◎身近にある危険を知る～山地災害危険地区について～…………… 10</p> <p>◎L1防潮堤の完成により防災林の植栽が本格化…………… 10</p> <p>◎気仙沼管内における海岸施設の復旧状況について…………… 11</p> <p>◎「三陸リアスの森保全対策事業」を実施しています…………… 11</p> <p>◎春の山火事に御注意ください！…………… 12</p> <p>【シリーズ】◎研究情報コーナー ○菌根性きのこの人工栽培に関する研究…………… 12</p> <p>【市 況】◎木材市況の動向・特産市況の動向…………… 13</p>
----	--



多くの方が参加した構造見学会

県内初となる CLT建築物が完成

木材を大量に使用し、コンクリートパネルに近い強度を持つ木質材料として期待が寄せられる、CLT(直交集成板)を使用した建築物が当事務所管内において建設・完成しました。この建築物は県内初となるCLT工法による事務所棟で、多くの方々から注目を集めています。また、床や天井部を「現し」にしてCLTを室内から見る事ができるよう工夫されています。使用したCLTには、宮城県

産スギ一八〇立方メートルが使用されており、一般の住宅で使用される木材量の約二倍に相当します。

これらのCLTパネルは、宮城県から岡山県の工場に材料を運び製造しましたが、今年度から宮城県内でもCLTパネルの一貫製造が可能になったことから、これまで木造率が低かった中層建築物へのCLT利用の拡大に期待が高まります。



天井や床、壁にCLTを使用

今後もCLT普及を始めとした木材利用推進の活動支援を通して、県内の林業・木材産業活性化に寄与する取組を継続してまいります。

(仙台地方振興事務所)

東松島市立宮野森小学校の新校舎が完成しました

東松島市で整備が進められていた宮野森小学校の木造新校舎が竣工し、落成式が挙行されました。

宮野森小は、東日本大震災で被災した旧野蒜小と旧宮戸小を統合し、平成二十八年四月に新たに誕生した学校です。現在の六年生は、震災直後に入学し、一年生の最初から仮設校舎で過ごしてきたことから、「最後の三学期だけでも新校舎で」という思いで、関係者の協力の下、同年十二月に竣工しました。

校舎は、教室棟や特別教室棟、屋内運動場など六棟の主要



スギがふんだんに使われている教室棟



現しの構造が印象的な屋内運動場

な建物と付属施設の延べ床約四千平方メートルとなり、一部を除いて全て木造で建てられました。また、一部を鉄筋コンクリート造や鉄骨造とすることで、大規模な木造建築を可能にする設計上の工夫もなされています。

主要な建物の構造材には、宮城県産材を含むスギやヒノキの無垢材が五千本(約五百立方メートル)使われています。床や壁といった内装にも木材がふんだんに使われ、木の空間が広がる校舎となりました。

新校舎に入った児童らは、笑顔に溢れており、この校舎でたくさんのお出が出来ることを願ってやみません。

(東部地方振興事務所)

登米市市有林の FSC 森林認証の取得について

平成二十八年十二月十三日付けで登米市市有林が FSC 森林認証 (FM 認証) を取得しました。

森林認証とは、独立した第三者機関が一定の基準のもとに、適切で持続可能な森林経営が行われている森林または経営組織などを認証するもので、認証を受けた森林で生産された木材や製品にはラベルが貼り付けられ、消費者の選択的な購買に供されます。

登米市では、二〇二〇年の東京オリンピック関連施設に森林認証木材の使用が決まったことや、隣接する南三陸町で FSC 森林認証を取得していること、さらには森林認証制度が将来、国産材流通に広く普及していくとの見方から、市有林の全面積二千七百七十七畝で森林認証の取得を決め、森林整備を受託する東和町・登米町・津山町の各森林組合、及び組合所有林での認証取得を検討している米川生産森林組合とともに平成二十八年六月、「登米市森林管理協議会」

を設立し、共同で認証を取得することになりました。

同年八月から十一月にかけて、認証機関による審査が行われ、申請書類の内容、林業事業体の雇用・労務、森林整備状況等について確認を受けました。

その結果、晴れて認証が決まり、同年十二月二十六日に登米市役所で認証書伝達式が行われ、認証機関であるアマタ株式会社の小川主任審査員から、協議会会長である布施登米市長に認証書が手渡されました。

登米市では今後、森林認証木材の流通拡大に向けて、積極的に取り組んでいきます。



登米市役所での認証書伝達式

(東部地方振興事務所 登米地域事務所)

全国初 FSC 全体プロジェクト認証による 南三陸町新庁舎の 構造見学会が開催されました

平成二十九年九月の完成を目指し、公共事業では全国初の取組となる「FSC 全体プロジェクト認証」により建設中の南三陸町新庁舎において、同町歌津地区の FSC 認証木材による大断面集成材の施工が完了したことから、県内市町村職員のほか、建築関係者等を対象とした構造見学会が十二月十六日に開催されました。

見学会は、約百二十名の参加者を二回に分けて実施し、設計を担当した株式会社久米設計と集成材の施工を担当した三井住



FSC 集成材の施工状況

商建材株式会社が、庁舎の設計概要と、サミット工法による集成材の施工内容について説明したほか、当事務所から、FSC 全体プロジェクト認証の概要について説明しました。

説明後、施工現場に移動し、構造用集成材の施工状況を確認しながら、施工技術者からの説明を受けました。最大断面寸法五〇センチ×四〇センチ、最大スパン十二、五メートルの大断面集成材が格子状に施工され、構造と意匠を兼ねたデザインとなっています。

今後は、FSC 製品を含む管理木材の内装材への供給に向け、南三陸森林管理協議会等の関係者への支援を行っていくこととしていきます。



構造見学会の様子

(気仙沼地方振興事務所)

**株式会社イトーキ及び
宮城県林業振興協会と
「宮城県産材利用推進
に関する協定」を締結**

宮城県と株式会社イトーキは、これまで東日本大震災による被災木を原材料とした家具の製作をはじめ、宮城県産材を活用した家具の開発及び普及促進に取り組んできました。この取組を更に飛躍させていくため、平成二十八年十月三十一日、三者による協定が締結されました。

本協定に基づき、宮城県は、本取組の周知・PRを行い、県産材利用拡大に向けた林業振興施策を推進していきます。株式会社イトーキは、全国の製造・販売ネットワークを活用し、県産材オフィス家具の製造及び販売を推進していきます。宮城県林業振興協会は、木材利用の意義の普及啓発に努め、県産材利用の意識を醸成していきます。今後、三者は協働して県内外の民間企業や公共施設への県産材オフィス家具の販売推進を通じ、県産材の利用拡大及び地域林業の発展に寄与していきます。

協定式において、株式会社イトーキの平井代表取締役社長は「今回の協定を機に、宮城県産材を使用した家具や内装のPRを積極的に行い、宮城県の震災からの創造的復興と林業の振興に貢献したい」と述べました。



左から、佐藤会長、村井知事、平井代表取締役社長

また、宮城県林業振興協会の佐藤会長は、「身近なところから『木を使う』ということが、地球温暖化の防止や県民生活の向上、震災からの復興などにかかわる大切なことであることを普及啓発し、知っていただくことで需要を喚起する『みやぎ木づくり運動』の一層の推進に努めてまいります」と述べました。

(林業振興課

みやぎ材流通推進班)

**WOODコレクションモクコレ2017
に県内木材関係団体が出展**

平成二十九年一月十九日と二十日の二日間、東京ドームシティプリズムホール(東京都)において行われた、WOODコレクション(モクコレ)2017に、県内の木材関係団体(セイホク株式会社・西北プライウッド株式会社・石巻合板工業株式会社・株式会社イトーキ・クラフトショップもくもくハウス・南三陸町観光協会・FSC・FM連携代表南三陸森林管理協議会)が出展しました。

本イベントは、東京都が日本



モクコレの状況①

各地と連携する産業振興施策である「ALL JAPAN & TOKYOプロジェクト」の一環として開催され、全国十六都道県が参加しました。宮城県のブースでは、県産材を用いたCLT・LVLをはじめ、木の良さを活かした家具製品や木製おもちや、FSC認証を活用した仙台箆筒など、県産材の魅力がありますことなく伝える展示となりました。また、東日本大震災により被災した地域での取組を展示することで、震災からの力強い復旧・復興の様子を伝えることができました。



モクコレの状況②
(手前に展示しているのはCLT)

(林業振興課

みやぎ材流通推進班)

地域材の用途別安定供給 体制構築に向けた取組

平成二十八四月、大崎管内で初となる大型製材工場が本格操業したことから、地域の森林組合や素材生産業者の生産活動が活発化しつつあります。そのため、宮城北部流域森林・林業活性化センター大崎支部では、川上と川中が連携して地域林業の一層の持続的な活性化に繋げていく目的で、「宮城北部流域県産材供給体制構築会議」を設置し、第一回会議を開催しました。

会議ではまず、国有林や関係する市町、森林組合、企業等の参加の下、製材工場と素材生産の概要や丸太仕入規格基準等について検討しました。その後、「納材丸太品質向上・造材丸太仕分作業研修」と銘打ち、製材工場の土場で丸太を納材する際の留意点を、森林組合の素材生産現場ではグラップルによる仕分作業について検討しました。会議や研修の結果、原木供給者と需要者がそれぞれの業務内容を理解するとともに、現状を知ることができたと、参加



造材仕分研修の様子

したことで、具体的な欠点事項や納入基準を共有することができました。また、造材丸太仕分作業研修でも、グラップルにおける仕分作業の速さ、正確さに驚く参加者もいるなど、普段、他企業の現場を見ることが少ないことから、貴重な機会となった様子でした。

今回の取組を通じ、改めて、原木供給者と需要者との交流のみならず、供給者間の交流や意見交換の必要性を感じました。今後とも、様々なテーマで会議・研修を開催し、供給側、需要側双方の理解の促進や信頼を深めることで、よりスムーズで安定した地域材の供給体制の構築を図ってまいりたいと考えています。

(北部地方振興事務所)

者には大変好評でした。特に、納材丸太品質向上研修では、不適格材やそれを製品とした製品を見

特定非営利活動法人 リアスの森応援隊への 活動支援

当事務所では、本格稼働した気仙沼地域エネルギー開発株式会社による木質バイオマスガス化発電施設への間伐材等未利用材由来の発電用チップや、チップ乾燥用の燃料用木材の安定供給体制の構築を目指し、市内の自伐林家等の育成支援等に取り組んでいる特定非営利活動法人リアスの森応援隊と連携し、自伐林家への支援を行っています。

リアスの森応援隊では、これまでどおり地域内の林業参入を希望する森林所有者等への技術研修を実施するほか、発電プラントへの県内外からの視察希望者に対する窓口・案内業務等を行ってききました。

このような活動を行う中、地域資源活用型の取組に共感し、気仙沼地域で林業従事を主体とした活動を希望するUIJTメンバー等の問い合わせに対応するため、十一月末に事業化された「森林・林業人材交流活性化支援事業」を活用し、就業希望者

を対象とした研修に着手しました。今年度は、四名の就業希望者に対し、気仙沼市地域おこし協力隊に採用された二名の森林施策を中心とする活動と連携し、地域の新たな林業の担い手の育成に取り組んでいます。



就業希望者へのチェーンソー作業指導

現地研修では、自伐林家の先輩となる「八瀬森の救援隊」やフォレストクマガイ等の施業現場で、路網整備と一体となった間伐施業の研修を行うなど、より実践的な内容での取組を行うとともに、地域の自伐林家との協業化等による就業機会の創出への取組も併行して支援しています。

(気仙沼地方振興事務所)

消費者へ原木しいたけの復活をアピール

『イオン富谷店』と秋保ヴィレッジでイベント開催

平成二十四年以降、福島第一原子力発電所事故の影響で、一部の市町村では原木しいたけ（露地栽培）の出荷が制限されていますが、汚染を抑えた栽培管理を行うことにより、これまでに仙台市で七名、大和町で一名の原木しいたけ生産者がロット単位での出荷制限解除を受けています。

管理の下に生産された安全・安心な原木しいたけの消費拡大を図るため、十月八日にイオン富谷店、十月二十二日・二十三日



原木しいたけ生産復活をPR

日には秋保ヴィレッジにおいて、各市町の生産者の方々と原木しいたけ生産再開をPRするイベントを開催しました。

原木しいたけの植菌体験や栽培キットが当たる抽選会を実施しながら、生産者とともに原木しいたけの魅力や解除の取組に関するPR、原木しいたけの試食販売を行ったところ、多くの来客で賑わいを見せ、原木しいたけの安全性と品質を消費者へ充分伝えることができました。



植菌体験で理解を深める

今後も風評被害を払拭し、消費拡大に繋がるPR活動を進めるとともに、露地栽培原木しいたけの安定生産に向けて、関係者と連携を図り、原木しいたけ生産者の出荷再開支援を継続してまいります。

(仙台地方振興事務所)

みやぎの「原木しいたけ」をPRしました

宮城県産の原木しいたけは、福島第一原子力発電所の事故後、放射性物質による出荷停止や風評被害にさらされてきましたが、生産者は、環境にやさしく安全で美味しい原木しいたけを消費者に届けるため、徹底した栽培管理のもと生産再開に取り組みできました。その結果、県内における露地栽培の原木しいたけ生産者二十八人が出荷を再開し、生産量も徐々に増えてきたことから、一月三十一日から二月十日までの間、「原木しいたけ」をPRするイベントを開催しました。

一月三十一日には、仙台市内のホテルにおいて「みやぎ原木しいたけ生産再開感謝の集い」を開催し、県内の原木しいたけ生産者、飲食店、流通関係者、消費者等百名の参加により、震災後からこれまでの道のりを振り返りながら、参加者みんなが生産再開ができた喜びを分かち合いました。

また、二月一日から十日まで県庁二階回廊において「みやぎの原木しいたけ生産再開パネル



原木しいたけの展示状況

展」を開催しました。併せて、二月六日から十日まで県庁一階ロビーで開催した「こだわりの原木しいたけ販売会」では、毎日原木しいたけが売り切れになるなど大変好評でした。県では、今後も原木しいたけの魅力をもっとPRし消費拡大を図るとともに、引き続き生産再開に向けて生産者を支援してまいります。



集合写真

みやぎ原木しいたけ生産再開感謝の集い

(林業振興課地域林業振興班)

良質なたけのこ生産をめざして
～竹林整備研修会を開催～

福島第一原子力発電所事故により、たけのこの出荷制限が続いている栗原市若柳地区では、多くの竹林が放置され、管理が不十分になっていきます。一方、来年度以降に出荷制限解除が期待されていることから、将来を見据えて、健全な竹林整備による良質なたけのこ生産と竹材の有効利用を図るため、十二月七日に「竹林整備研修会」を開催しました。

当日は、たけのこの生産再開希望者など十五名が参加し、適正な竹林整備の手法についての説明や適正な密度管理を行った竹林と管理不十分な竹林の比較・検討を行いました。



竹林の手入れ方法を学ぶ

また、伐採した竹材の利用法について、各地の事例紹介を行うとともに、チップ製造機械メーカーの協力を得て、移動式チップパーによる竹チップの製造体験を行いました。そして、製造した竹チップは地元農家の協力により、当地区の特産であるブルーベリーのマルチング資材として使用し、今後、効果等を検証することとなりました。



竹チップ製造体験

今回の研修を通して、参加者に竹林の整備や竹材の有効利用について理解と関心を深めてもらうことができました。当事務所では、生産者に寄り添いながら、一刻も早い生産再開と解除後の良質なたけのこの生産を引き続き支援してまいります。

(北部地方振興事務所)

(栗原地域事務所)

宮城県林業研究会連絡協議会主催の
森林・林業研修会が
開催されました

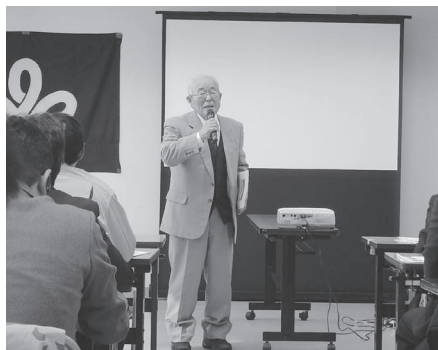
宮城県林業研究会連絡協議会(以下「県林研」という。)は、県内の林業研究会の集まりです。林業研究会は、それぞれの地域で森林・林業を深く探求しようという強い志を持つ仲間が集まりです。こうした仲間は日本全国に存在し、県林研は、その先駆けとして、日本で最初に組織された団体で、組織化から六十一年目を迎えます。また、その後、設立された全国林業研究グループ連絡協議会の初代会長も県林研から就任しており輝かしい歴史をもつ団体です。

今年度も、県林研主催による研修会が二月三日(金)に、仙台市青葉区の漁信ビルで、森林・林業関係者を集め開催されました。

県林研では、児童・生徒に森林の良さや・林業という職業を紹介する活動を実施しており、この日の研修会では日頃の活動内容について、仙南フォレストクラブ・鳴子林業研究会連絡協議会・津山町林業研究会から報告がありました。

また、県議会議員・角田市長を務められた元県林研会長の佐藤清吉氏から、かつての林業研究会活動について御講話を頂きました。さらに、佐々木県林研会長から、来る全国林業グループコンクールで特別講演を行う予定の海岸林再生活動について講演がありました。

県森林整備課からは、森林資源の成熟に伴い、近年注目されつつある「造林一貫作業システム」という森林の施業方法の概要と森林整備事業のあらましについて、また、県林業技術総合センターからは、県内の病害虫獣被害とその対策について講義がありました。



講話するお元氣な佐藤元会長

(林業技術総合センター)

(県林研事務局)

『みやぎバットの森植樹祭』 の開催について

「みやぎバットの森植樹祭」は、平成十七年にプロ野球球団「東北楽天ゴールデンイーグルス」が本県に誕生したのを契機にスタートしました。その後、同球団の活躍及び地域に密着した野球文化並びにみどりの文化の末長い隆盛を願い、バットの原木となるアオダモを主とした広葉樹の森づくりが、県内各地で地域の方々と協働で進められています。

第十二回目を迎えた今年度は、十一月五日に七ヶ宿町を会場に開催されました。

当日は、天候にも恵まれ、七ヶ宿小学校の皆さんやスポーツ少年団員など百六名が参加し、アオダモの苗木百本を植栽しました。

植樹を終えた後は、楽天野球団のジュニアコーチの指導による野球教室が開催され、子どもたちも楽しみながら熱心な指導を受けていました。



植栽後の集合写真



みんなで植栽

(自然保護課みどり保全班)

『わたしたちの森づくりの事業』 の取組について

森林整備課では、社会貢献活動等の目的で、森づくりに取り組もうとする企業等に、県有林（県が特別会計により林業経営を行っている森林）を活用していただく、「わたしたちの森づくり事業」を実施しています。

この事業では、森づくりを希望する企業等と五年間の協定を結び、県有林を森づくり活動の場として提供するとともに、希望があった際には、森の命名権を有償で譲渡するもので、現在、十五の企業等が森づくりに取り組んでおり、うち十の企業等が命名権を取得しています。



県は、企業等からの新規の問い合わせには随時対応しており、県内各地の県有林から、企業等の希望に応じて候補地を提案し、現地案内等を含めて協

議・調整し、活動場所を決定しています。

この事業には、植栽や下刈、除伐等、作業に不慣れな方でも取り組みやすい作業を企業等が自ら実施するタイプと、間伐等の本格的な作業を県と共同で実施するタイプがあり、森づくりの内容や企業等の希望により選んでいただいています。

どちらのタイプも、森づくりに加えて、社員やその御家族等を対象とした森林作業体験や、自然観察会等のイベントを開催することができますので、森林・環境学習や、社員同士の懇親にも御活用いただけます。

こうした取組により、多くの方々が森林・林業に親しまれるとともに、森林整備が促進され、二酸化炭素吸収機能や水源かん養機能等が向上することが期待されます。当課では、今後企業等による森づくりの推進に取り組んでまいります。



(森林整備課県有林班)

自然環境功労者環境大臣表彰を受賞しました

環境省では、全国の中で、自然環境の保全に顕著な功績があった方々を毎年表彰しています。

今年度、宮城県からは、自然公園指導員などを務める三島木進氏と、団体として蔵王町立平沢小学校が環境大臣表彰を受賞しました。

三島木氏は、環境省の自然公園指導員や宮城県蔵王国定公園指導員、宮城蔵王ガイド協会会長などに従事し、高山植物の保護やゴミの不法投棄防止など自然環境の保護と登山者のマナー向上に長年尽力されています。

また、自然観察会等の活動を通じて、自然のすばらしさや保護の重要性について普及啓発するとともに、観光を通じた地域振興にも貢献されるなど、蔵王国定公園における環境保全活動の中心的存在として活躍されてきました。

長年にわたるこうした活動が評価され、自然公園関係功労者環境大臣表彰を受賞されました。今回の受賞について三島木氏は、「これまでの活動がこの

ような形で評価されたことは、とても嬉しく自信にも繋がった」と話されています。



三島木 進氏

蔵王町立平沢小学校は、「自ら考え、自ら学び、自らかかわる子どもの育成」を教育目標に掲げ、学校林活動を中心とした環境教育の実践が評価されての受賞となりました。

全学年が年間を通して造林や保育活動に取り組み、森林の持つ多様な機能や重要性について学んでいます。また、みどりの少年団活動にもたいへん熱心で、活動開始から三十年目を迎えています。

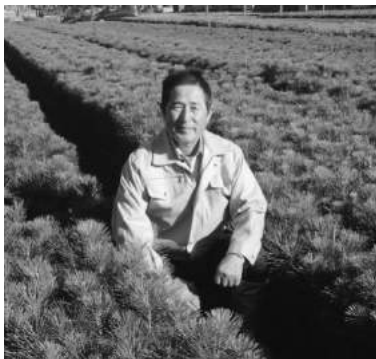
このように、地域と学校が協力して、長年継続的に実施してきた環境整備や環境問題への取組が評価され、「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受賞されました。

誠におめでとうございます。
(自然保護課自然保護班)

苗木生産で日本農林漁業振興会会長賞を受賞しました

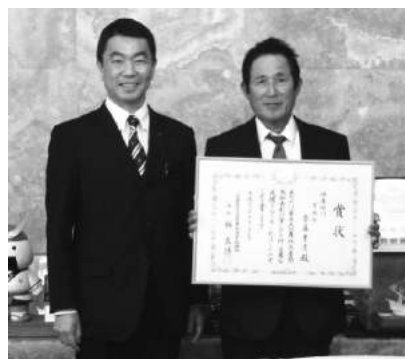
平成二十八年十一月二十三日に明治神宮で行われた第五十五回農林水産祭において、東松島市で林業用種苗木生産を行っている齋藤豊彦氏が日本農林漁業振興会会長賞を受賞しました。

齋藤氏は、主に抵抗性クロマツコナテナ苗を生産し、東日本大震災における被災沿岸部の海岸防林の復旧に貢献しているほか、スギやマツのコナテナ苗生産技術の確立に先駆的に取り組み、全国からの視察の受け入れや研修講師を務めるなどの技術普及活動が模範的な取組として高く評価されました。



齋藤豊彦氏と苗木

東日本大震災の津波では苗木が被災し、翌年の収支は落ち込みました。現在では、普通苗木生産からコナテナ苗木生産に完全に移行しています。さらに、海岸防林復旧用クロマツの需要は中期的なものであることから、復旧後も見据え、低花粉スギの生産やカラマツのコナテナ苗木生産試験にも着手しています。



知事へ受賞報告

十二月二十二日には、宮城県庁で知事及び農林水産部長への受賞報告会が行われました。齋藤氏からは「今後も時代に合わせて進化した苗木づくりを進めていきたい」と挨拶がありました。当事務所としても、今後も優良な苗木生産への取組に対し支援してまいります。

(東部地方振興事務所)

身近にある危険を知る 山地災害危険 地区について

近年、台風等の大雨や集中豪雨などの異常気象により、全国的に山崩れなどの山地災害が多く発生し、多大な被害を及ぼしています。そのため、私たちが日頃から山地災害の危険と隣り合わせに生活していることを認識し、山地災害発生の際の適切な場所を知ることが、とても大切なことです。

県では、人家や公共施設などに被害を与える恐れのある山の斜面や溪流などについて調査を行い、地質や地形などから、一定の基準以上の危険があると判定した場所を「山地災害危険地区」として設定し、その情報を公開しています。この「山地災害危険地区」は、現在、県内に約二千二百箇所あり、想定される災害に応じて、山腹崩壊危険地区、崩壊土砂流出危険地区、地すべり危険地区の三つに区分されています。

これらの情報は宮城県ホームページ（サイト内「山地災害危険地区」で検索）から自由に見

ることができまますので、ぜひご覧いただき、災害による被害の未然防止に役立ててください。なお、平成二十八～二十九年度に全危険地区の再点検を実施しておりますので、その結果も随時提供してまいります。



大崎市鳴子温泉中道
(山腹崩壊危険地区)



刈田郡七ヶ宿町大深沢
(崩壊土砂流出危険地区)

(森林整備課治山班)

L1防潮堤の完成により 防災林の植栽が本格化

平成二十六年度からL1(数十年から百年に一度発生)津波対策として進めていた海岸防潮堤工事のうち、十八成地区(石巻市)と大曲浜地区第二工区(東松島市)が昨年九月に完成しました。

十八成地区では、堤高が震災前より一.四メートル、〇.六メートルの直立堤を、延長二八七メートル復旧しました。また背後では、約一.五メートルの防災林造成を急ピッチで進めています。さらに、南側では、石巻市が地盤沈下で消失した鳴砂で有名な十八成海水浴場の再生を検討しており、地域の再生が進みつつあります。

大曲浜地区では、堤高が震災前より一.七メートル、二.七メートルの傾斜堤を、全延長五.三キロメートル復旧する計画で工事を進めており、このうち第二工区(一.一キロメートル)が完成しました。残る四.二キロメートルは今年の六月完成を目指して工事を進めています。当該工事は、隣接工事との多くの調整事項や波浪等による進捗の停滞もありましたが、工事を担当

している派遣職員の大きな力により着実に工事が進みました。背後の航空自衛隊松島基地では、昨年八月に航空祭復活に向けた復興感謝イベントが開催されるなど、地域の復興も着実に進んでいます。

今後は、背後の約四十三キロに及ぶ防災林の早期造成に向けて、県民参加型の植樹活動「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」も取り入れながら植栽を本格化させてまいります。



左上：大曲浜地区(2工区)
上：十八成地区
左：大曲浜地区の植栽活動

(東部地方振興事務所)

気仙沼管内における海岸施設の復旧状況について

東日本大震災で被災した防潮堤や海岸防災林など三十四箇所中十四箇所を優先して復旧工事を進めています。工事の一部が完成してきますので紹介します。

一 林地荒廃防止施設災害復旧事業「波伝谷」(南三陸町戸倉地内)

当該地には、波浪、高潮から住宅や道路等を保全するため、防潮堤及び海岸防災林が整備されていましたが、東日本大震災と直後の大津波によって被災しました。このほどL1津波に対応する防潮堤として復旧工事が完了しました。背後の海岸防災林は「みんなの森づくり」など県民のみなさまのご協力を頂いて植栽することとしています。



「波伝谷」：海岸線沿いに残る旧防潮堤と完成した新防潮堤

二 海岸防災林造成事業「沖ノ田」(気仙沼市松崎地内)

海岸防災林は、潮害、飛砂、風害防備のほか、保健休養、生物多様性保全に加え、農地等を災害から守り、生活環境の保全に重要な役割を果たしています。



「沖ノ田」：格子状の防風柵で季節風から守っています

海岸防災林は、津波エネルギーの減衰、漂流物の捕捉などにも効果がありました。地下水位が高い場所では根返り(倒伏)し、流出したものが多数ありました。このため、地下水の影響を受けないように、盛土を行って用地を造成しています。失われた海岸防災林の機能を早期に発揮させるため、植栽樹種はクロマツとし、松くい虫被害対策も考慮して、抵抗性クロマツを植栽しています。

(気仙沼地方振興事務所)

「三陸リアスの森保全対策事業」を実施しています

三陸地域は、岬と入り江が連続する美しいリアス海岸を形成し、水深の深い入り江が天然の良港となり、複雑な岩礁が沿岸の海洋資源を育んでいます。しかし、海岸崖地は大津波による浸食を受け、至るところが崩壊し、波浪等によって土砂が海に流出して濁りが発生したり、松くい虫被害等の枯木が倒木となって流出し、漁場への影響が懸念されるなど、発生源となる荒廃斜面対策の実施が求められています。

治山事業は、森林の維持造成を通じて山地災害の防止など国



海岸崖地対策施工箇所「今朝磯」：本吉町今朝磯地内

土保全対策を行うものですが、これらの荒廃斜面の多くは、国庫補助事業の対象とならないため、対策工事の実施ができませんでした。このため、新たに県単治山事業「三陸リアスの森保全対策事業」を創設し、気仙沼管内で十一箇所の対策工事の実施を計画しました。



枯木伐採・除去計画箇所

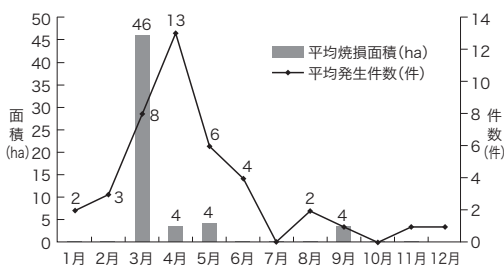
対策工事では、枯損木の伐採除去や崩壊した斜面の安定と植生の回復を図る山腹工事などを行います。双方の対策を行う箇所や状況に応じて波浪対策に有効な消波ブロックを設置することもあります。

今後、関係市町、団体等と連携しながら景観や漁場に影響を与えている箇所を優先し、対策工事を進めています。

(気仙沼地方振興事務所)

春の山火事に 御注意ください！

県では、三月一日から五月三十一日まで山火事予防運動を行っています。例年、春先は雨が少なく空気が乾燥し、一年で最も山火事が発生しやすい時期となります。平成二十二年から五年間の平均では、三月から五月にかけて二十七件の山火事が発生し、約五十四畧の森林が焼損しています。



判明している原因では、例年農作業等によるたき火が最も多く、僅かな不注意から発生していると考えられます。乾燥しているときや風の強い

日にはたき火をしない、燃えやすい落ち葉や枯れ草の近くでたき火をしない、たき火の場を離れず最後は消火を確認する、たばこの吸い殻は投げ捨てない、火遊びはしないなど、一人一人が気をつけることで山火事を防ぐことができます。

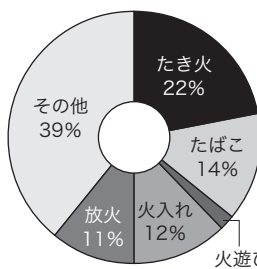


図2 原因別発生割合 (平成22年から26年までの平均)

山火事は発生すると消火が難しく、広範囲に及ぶこともあるほか、失われた森林の機能の回復に長い年月がかかります。宮城の美しい森林を守るため、火の取り扱いには十分気をつけるなど、御協力をよろしくお願いたします。



平成29年 山火事予防ポスター

(森林整備課森林育成班)

研究情報コーナー

菌根性きのこの人工栽培に関する研究

菌根性きのこのことは、樹木の根に菌根と呼ばれる菌糸の塊を作り共生しているきのこで、土壌中のリン酸や窒素などを植物に供給し、代わりに光合成でつくられた炭素化合物を得てこれを利用する。エネルギー源として生長します。

当センターでは、菌根性きのこの一種で高級きのことして珍重されているシヨウロの研究を株式会社環境総合テクノスと共同で行っており、今回はその一部を紹介したいと思います。シヨウロはクロマツと共生することが知られているため、ク



岩沼試験地

ロマツコンテナ苗の根にシヨウロの菌糸を感染させ、自然の発生したきのこの胞子を得られる

液体を希釈し、散布したものを使います。

これらのクロマツコンテナ苗を名取市、七ヶ浜町及び岩沼市の試験地に植栽し、クロマツ苗の生長やシヨウロの発生状況を調査しているところです。

現在、クロマツ苗については、いずれの試験地においても順調に生長しており、シヨウロについても、シヨウロが好むとされる砂地の試験地からきのこの発生が確認されています。

今後は、海岸盛土造成地である試験地からの発生を期待しながら調査を継続し、苗の生長の傾向を把握しながら、シヨウロの人工栽培方法の確立に努めていきます。



発生したシヨウロ

(林業技術総合センター)

木材市況の動向

表1 各共販所別木材市況(平成29年1月)

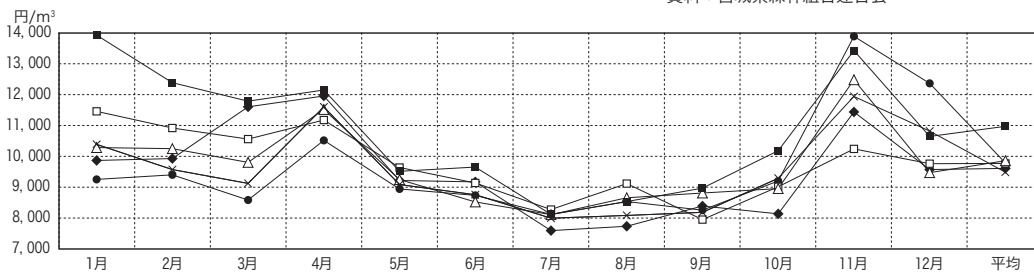
樹種	材長 m	径級 cm	価格(中値 単位:円/m ³)					
			仙南	仙北	東和	大衡	津山	石巻
スギ	3.00	14~16	—	—	9,000	9,000	—	—
		16~30	10,800	—	—	—	—	—
		20~30	—	—	—	—	10,000	—
	4.00	10~13直曲	7,200	12,600	12,600	12,600	12,600	—
		14~18	10,000	12,600	12,600	11,800	12,600	—
		20~28	—	10,800	10,800	—	—	—
		30上	—	10,800	10,800	—	—	—
	3.65 ~4.00	20~28	10,080	—	—	10,800	10,000	—
		30上	10,080	—	—	10,800	10,000	—
1.95	16上	—	6,120	6,120	6,120	6,120	—	

資料:宮城県森林組合連合会

概況

素材動向

各センターの入荷は急激な減少となった。出品は少なかったが、新材になったこともあり価格は太径材を除き全て値上がり傾向での動きになった。今後も材不足の影響から値上がり傾向の動きになると思われる。



□ 平成23年
 ● 平成24年
 ● 平成25年
 ■ 平成26年
 △ 平成27年
 × 平成28年

素材:県森連共販所市況(平均価格)

図1 素材価格の動き

特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況

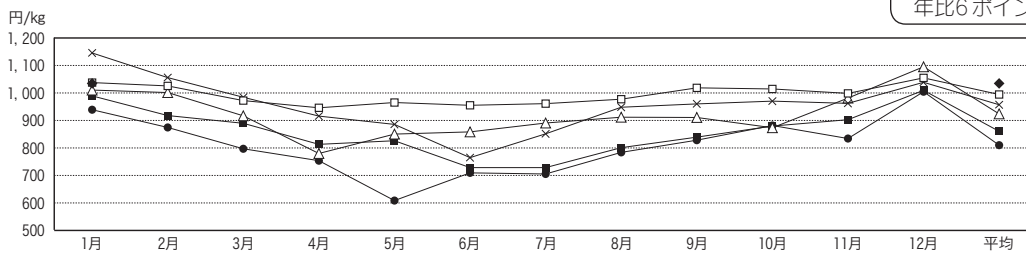
単位:円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成24年	939	875	798	755	611	711	707	785	829	882	835	1,004
平成25年	989	918	890	814	827	730	730	802	840	880	903	1,009
平成26年	1,010	1,001	917	781	851	859	891	912	911	874	981	1,094
平成27年	1,144	1,055	984	916	886	766	852	948	960	970	962	1,038
平成28年	1,037	1,025	972	946	965	955	961	977	1,018	1,014	998	1,054
平成29年	1,034											

資料:仙台中央卸売市場

概況

・平成24年に原木しいたけ(露地)が出荷制限指示を受けたこと等に伴い、価格は大きく下落したが、全国的な品薄状況を背景に単価は徐々に回復してきている。平成28年次は対前年比+37円と震災のあった平成23年と比べ単価が大幅に上昇している。
 ・平成29年次も高い水準での取引が続いている。
 ・なお、平成28年次の県産しいたけの入荷量は340 t(前年比62 t減)であり、市場占有率は67%(前年比6ポイント減)であった。



● 平成24年
 ■ 平成25年
 △ 平成26年
 × 平成27年
 □ 平成28年
 ● 平成29年

図2 生しいたけ価格の動向

表3 宮城県の新設住宅着工戸数(平成29年1月)

項目	総数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
平成29年1月(戸)	1,573	1,114	459	70.8
平成28年1月(戸)	1,856	1,153	703	62.1
前年同月比(%)	84.8	96.6	65.3	—
平成28年2月~29年1月(戸)	21,932	15,417	6,515	70.3
平成27年2月~28年1月(戸)	23,829	15,781	8,048	66.2
前年同期比(%)	92.0	97.7	81.0	—

資料:住宅着工統計

概況

新設住宅着工戸数

・1月の新設住宅着工戸数は前年同月比で減少し、減少傾向は続いている。
 ・1月までの累計比でも前年を下回っている。

国産材(生産販売)、木材チップ生産
製材業、伐出造林請負



宮城十條林産株式会社

代表取締役 亀山 武弘

本 社 〒980-0871
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150
営 業 所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山
工 場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社
株式会社宮城環境保全研究所

明治41年創業

～100年かける家づくり～



自然との共生、めぐるめぐみ をテーマに、
私たちは森を愛し、大切に育てていきます。

〒989-1601 宮城県柴田郡柴田町船岡中央1-9-12
Tel:0224-58-1100 Fax:0224-58-2252
www.web-sakamoto.co.jp

宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 征弘
専務理事 亀山 武弘
理 事 小澤 幸三
理 事 佐々木 市夫
監 事 阿部 貢夫
監 事 一條 英夫

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

宮城県木材チップ工業会

会 長 奥津 文男
副会長 亀山 征弘
副会長 永井 政雄
副会長 米澤 光秀
副会長 山形 喜昭

ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151

見て触れて住んでしみじみ 木の住まい 宮城県木材協同組合

理事長 佐藤 豊彦

宮城県木材需要拡大協議会

会長 佐藤 豊彦

みやぎ材利用センター

会長 佐藤 豊彦

〒981-0908 仙台市青葉区東照宮1-8-8
TEL:022-233-2883 FAX:022-275-4936

一般財団法人 佐々君治山報恩会

代 表 理 事 遊 佐 勘左衛門
事 務 局 長 佐々木 治 樹

〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号
TEL (0229) 22-1281
FAX (0229) 22-1281
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

次代へ進むメーカーと共に技術で、商品で、ニーズに応えます。
製材機械・木工機械・林業機械・プレカット・集成材プラント・乾燥機は

信頼の高い筒井鋼機株式会社へ

筒井鋼機株式会社

本 社 仙台市青葉区花京院二丁目2-22 TEL022-224-1261・FAX022-265-9231
盛岡営業所 盛岡市青山四丁目47-32 TEL019-641-7713・FAX019-641-7807
郡山営業所 郡山市田村町金屋字新家34-1 TEL024-944-5912・FAX024-943-5987

E-mail info@tutuiokoki.co.jp

U R L http://www.tutuiokoki.co.jp


地域林業の活性化と農山村地域の振興・発展に貢献

林業従事者の退職金共済・社会保険への助成，林業就業支援講習・「緑の雇用」現場技能者育成研修・森林・林業人材育成加速化事業等の実施，就業相談会の開催，林業関係雇用情報の収集と無料職業紹介等を行っています。

公益財団法人 みやぎ林業活性化基金 宮城県林業労働力確保支援センター

〒980-0011 仙台市青葉区上杉2丁目4-46 宮城県森林組合会館内
TEL 022-217-4307 / FAX 022-226-8767

森林は大切な資源です
森林整備を通して
美しい森林を未来に伝えます

 一般社団法人 宮城県林業公社
(森林整備法人)

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172
<http://www.miyagi-rinkou.sakura.ne.jp>







緑の募金
にご協力ください

未来へと 植えて育てる 緑の輪
(平成29年 国土緑化運動標語)

春期募金期間 3月1日～5月31日

秋期募金期間 9月1日～10月31日

平成29年度 緑化促進事業 募集中!

-  みどり環境促進事業
-  ふれあいの森づくり事業
-  ふるさとの樹木保存事業
-  みんなの森造成事業
-  みんなの街づくり事業
-  海岸防災林再生事業

詳しくはHP(<http://miyagiryokusui.com>)、または下記事務局までお問合せ下さい。

公益社団法人宮城県緑化推進委員会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎10階
TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502

「公益信託 農林中金森林再生基金」(農中森力基金)等を通じ、森林の公益性発揮を
目指した活動を積極的に支援していきます。

農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号(JAビル宮城内) ☎022(711)7386(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

JForest 宮城県森林組合連合会

森林組合系統の新しいロゴマークです

仙台市青葉区上杉2丁目4-46
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

■優良みやぎ材の原木は

仙南木材センター 0224-65-2166	東和木材センター 0220-45-2240
大衡総合センター 022-345-2205	津山木材センター 0225-68-3038
岩出山木材センター 0229-72-1877	

■樹木の枝や根の有効利用は ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

◎山林用苗木生産、海岸防災林復旧事業用抵抗性クロマツ苗木生産

宮城県農林種苗農業協同組合

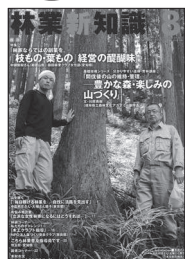
〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号
TEL (022)222-3661 FAX (022)222-3688

林業の^今を伝える月刊誌 平成29年度の購読申込受付中!!



GR 現代林業

A5判 80頁
年間購読料 5,200円(送料込み)



林業新知識

B5判 24頁
年間購読料 2,800円(送料込み)



山林

A5判 66頁
年間購読料 3,500円(送料込み)

図書の申込、問い合わせは

宮城県林業振興協会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
宮城県仙台合同庁舎10階

TEL 022-301-7501
FAX 022-301-7502

発行 宮城県林業振興協会 仙台市青葉区堤通雨宮町四番十七号
編集協力 宮城県農林水産部林業振興課 ☎022-301-7501